



鎮静剤を使用した大腸内視鏡検査

以前、ニュースレター第 17 号「苦痛を和らげる内視鏡検査（鎮静法）について」で、鎮静剤について紹介しました。そこで述べましたが、鎮静剤使用により、ほとんど苦痛を感じないで内視鏡検査を受けることが可能です。大腸内視鏡検査に伴う苦痛は個人差があり、あまり苦痛を感じない人もいれば、後述するような強い疼痛（痛み）を感じ、苦しむ人もいます。

今回は、大腸検査において痛みが生じるメカニズムと、その対策として鎮静剤を使用するメリットについて述べます。

➤ 大腸内視鏡検査でどうして痛みが生じるのか？

大腸は、図 1 のような構造をしています。腸は蛇腹状に折り畳まれており、理想的には蛇腹状構造を崩さないよう、本来は、長い腸を折り畳み（短縮）ながら内視鏡を挿入していくことが望ましいと考えられています(図 2)。しかし、挿入時に図 3 のように S 状結腸を伸展させなくては挿入できない場合があります。腸管が伸展することによって痛みが生じます。また、腸管と周囲の臓器との癒着（くっつくこと）があると、癒着した臓器と反対方向に腸管が引っ張られるため、痛みが生じることがあります。

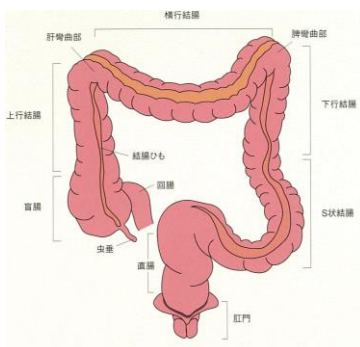


図 1 大腸の構造

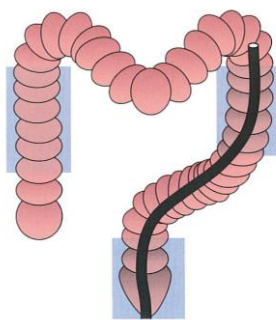


図 2 腸を折りたたみながら挿入

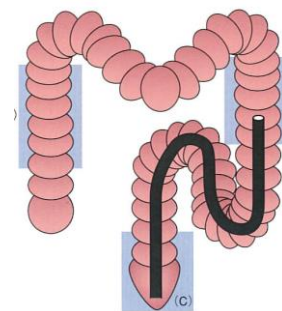


図 3 腸を伸展させながら挿入
⇒痛みが生じる

➤ どんな人が痛みを感じやすいのか？

- 腸に癒着がある場合
- 1 腹部の手術歴（帝王切開を含む。）がある方
- 2 S 状結腸に憩室が多発している方
- 3 婦人科（子宮・卵巣）の病気（子宮内膜症や子宮筋腫など）がある方
- その他
- 4 やせ形の女性（一方で、メタボの男性も挿入が難しい場合が多い。）
- 5 若い女性
- 6 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の方 など

では、疼痛を軽減するにはどうすればよいのでしょうか？

➤ 大腸内視鏡の疼痛対策

- 1 医師の挿入法の工夫：腸管に負担がかからない挿入法をできる限り行う。
- 2 炭酸ガスの使用：空気に比べ吸収されやすいため、腹部膨満感が軽減される。
- 3 内視鏡の選択：腸に負担のかからない細めの内視鏡を使用する。
- 4 **併用薬剤の推奨：鎮静剤及び鎮痛剤の使用**

上記1、2、3を駆使しても疼痛が生じることがあり、そのような場合には鎮静剤・鎮痛剤が必要不可欠です。それでは、次に鎮静剤の特徴について述べます。

➤ 鎮静剤の特徴

鎮静剤は、中枢神経系を抑制するため、抗不安作用、催眠・鎮静作用、筋弛緩作用などを発揮します。それにより、以下のような効果が期待できます

- 1 精神的負担の軽減…検査に当たっての不安感の軽減・消失
- 2 疼痛の軽減…催眠・鎮静作用により、癒着や腸管過伸展により生じる疼痛の軽減
- 3 腹部膨満感の軽減…催眠・鎮静作用、筋弛緩作用によるお腹の張る感覚の軽減

上記のような特徴を有するため、大腸内視鏡に伴う苦痛を軽減することが可能です。しかしながら、強い痛みの場合には、鎮静剤だけでは効果が不十分なことがあります。その際には、鎮静剤に加え鎮痛作用を有する薬を併せて使用すると強い痛みを軽減することができます。過去の内視鏡検査で痛みがとても強かったという方は、鎮静剤・鎮痛剤の併用が望まれます。検査途中で痛んだ場合の鎮静剤・鎮痛剤の効果は限定的であるため、検査開始時の使用が望まれます。検査開始前に「鎮静剤使用希望」をお申し出ください。

以上、大腸内視鏡検査における痛みと鎮静剤（鎮痛剤）使用による効果について述べました。

癒着がある場合や腸が伸びやすいからといって、すべての方が疼痛を感じるわけではありません。ただ、一度痛い辛い思いをして、それにより大腸内視鏡検査に「苦痛な検査」という苦手意識を持つことにより、次回以降検査から足が遠ざかり、ひいては大腸癌の早期発見の機会を失うことを避けなければなりません。少しでも大腸内視鏡検査に苦手意識がある方、これから大腸内視鏡検査を受ける方で鎮静剤使用を迷われている方は、一度鎮静剤を使用して苦痛のない内視鏡検査をご経験ください。鎮静剤使用により検査が楽に受けられることで大腸内視鏡検査へのハードルが下がるはずです。

検査の予約やご相談は、Tel.03-3668-6806 へご連絡ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局
Tel.03-3668-6803/E-mail:mail@soiken.or.jp